

「売茶翁読本」が できました

佐賀出身、江戸期の京都文化の中心人物として多くの人々に影響を与えた売茶翁。その功績の顕彰が進んできました。「若冲」としての売茶翁」と題して、天才画家・伊藤若冲と売茶翁との関係「売茶翁なくして若冲なし」と講演された美術史家・狩野博幸さんのお話、売茶翁が自ら茶を売る理由を書き残した「対客言志」、さらに、売茶翁の年表などを加え、1冊の本「売茶翁読本」(B5・44ページ)となりました。

1月21日(日)に旧古賀家・肥前通仙亭で開催する売茶翁の目指した、形式にこだわらない自由な茶会「お正月文人茶会」(茶券2千円)の参加者に優先で無料配布します。
※数に限りあり。



◎問い合わせ

肥前通仙亭

☎ FAX 65・21152

✉ tsusentei@b1.bunbun.ne.jp

その数日本一!

佐賀の恵比須さん ⑩

恵比須さんは街かどや寺社の一角に鎮座しているため、うっかり通り過ぎしてしまうこともあります。

そんな中、久保田にある「土井の古賀恵比須」さんは、その場所が分かるよう、道路沿いに案内看板が掲げられています。800体以上の恵比須像がある市内でも、このような看板があるところは珍しいです。久保田には他にもお寺などを案内する看板があり、街あるきをする人にとっては、とても親切に感じられます。また、知らない人にも知ってもらおうきっかけになるかもしれません。恵比須巡りをしていると地域の人々が声をかけてくれることもあり、皆さんの温かさを感じます。



◎問い合わせ

佐賀市観光協会

☎ 20・22000 FAX 28・5656

✉ info@sagabai.com

あなたの人権 わたしの人権

「街で目の不自由な人と出会ったら」

以前から、街で目の不自由な人と出会ったときはどう向き合えばいいかと考えることがありました。そのような中、11月23日の人権ふれあい講演会で、8歳で全盲になり、幾多の困難を乗り越えて来られた岡山ライトハウス理事長の竹内昌彦さんの講演を聞くことができました。

一口に視覚障がいと言っても、障がいの種類や程度は人によって異なります。全く見えない人もいますし、明暗がわかる人もいます。弱視や視野が狭い人、色の判断を困難とする人もいます。生活スタイルもさまざまな違いがあり、白杖を使う人や盲導犬を連れている人、単独歩行に慣れている人や誰かに誘導してもらわなければ歩行できない人もいます。

竹内さんは講演の中で「視覚障がい者を誘導するときは、誘導者は障がい者の右側に立ち、相手の手を左肩や左腕に置くことと安全に誘導することができます」と実演されました。また、「今、信号が青になりました」など声でいろいろな情報を教えてもらうと安心します」と話され、誘導の仕方や声のかけ方を学ぶことができました。



点字ブロックは視覚障がい者の安全な移動を支援する設備です。点字ブロックの上には物を置かないでください。

※市ホームページにも掲載しています。

11日は人権を考える日です。

(社会同和教育指導員 西村 正元)

◎問い合わせ

人権・同和政策課

人権啓発係(ほほえみ館内)

☎ 40・7367 FAX 34・4549

✉ jinken@city.saga.lg.jp